

長崎県南島原市深江方言における
可能表現ダス形の使用条件

言語学・応用言語学専門分野
2018（平成30）年入学
是枝美羽
2022（令和4）年1月提出

要旨

本論文では、長崎県南島原市深江町方言（以下、深江方言）で使用される可能表現ダス形の使用条件を他の可能表現との関係とともに明らかにすることを目的とする。ダス形は九州の各地で存在が指摘されてきたが、網羅的な研究はなされていなかった。そのため、ダス形の使用条件だけでなく他の可能表現との関係も明らかにするために、ダス形が頻繁に使用される深江方言で調査を行った。

結果として、ダス形の使用条件が、動作を実行するには時間が足りないという「時間的不可能」と、行為の実現を阻害している状況が時間の経過や自身の努力によって排除される可能性があるという「実現できる合理的期待」の2つであるという一般化を行った。また、ダス形が接続できる動詞の選択は、開始限界と意志性が条件となることがわかった。また他の可能表現との関係については、ダス形が特殊な可能表現であり可能の条件スケールに位置付けて比較することができないと結論づけた。

目次

1. はじめに	1
2. 深江方言について	2
3. 先行研究	3
3.1. 九州の可能表現	3
3.2. 可能の条件スケール	4
3.3. 可能表現ダス形	6
3.4. 問題点	7
3.5. 次章以降で扱うデータについて	8
4. 深江方言の可能表現の概観	8
4.1. 可能表現の形式面の整理	8
4.2. 可能表現の機能面の整理	10
5. 可能表現ダス形	12
5.1. 形式面の整理	12
5.2. ダス形が接続できる動詞	15
5.3. 可能表現ダス形の使用条件	16
5.3.1. 時間的不可能	17
5.3.2 実現できる合理的期待があること	19
5.3.3. ダス形の語用論的效果	24
5.4. ダス形のアスペクト的特徴	25
5.5. ダス形と他の可能表現の比較	26
6. おわりに	30
参考文献	33
グロス一覧	43

1. はじめに

本研究の目的は、長崎県南島原市深江町方言（以下、深江方言）で用いられる可能表現であるダス形の使用条件を、他の可能表現との使い分けとともに記述することである。ダス形は(1)のように用いられる。しかし、ダス形の使用には条件があり、(2)の例文ではダス形は使用できない。

(1)	<i>isogasyuusite</i>	<i>honba</i>	<i>yomidasan.</i>
	isogasi-u=si-te	hon=ba	yom-i-das-a-n
	忙しい-SEQ=LV-SEQ	本=ACC	読む-THM-POT-THM-NEG
「忙しいので本を読むことができない。」			

(2)	<i>teiden sityokken</i>	<i>honba</i>	<i>*yomidasan.</i>
	teiden s-i-te=or-ru=ken	hon=ba	*yom-i-das-a-n
	停電 する-THM-SEQ=PF-NPST=CSL	本=ACC	*読む-THM-POT-THM-NEG
「停電しているので本を読むことができない。」			

ダス形は、九州方言の可能表現に関する先行研究で存在は確認されていたものの、十分な記述が行われていないままである（詳しくは3.3節参照）。本論文では、ダス形が頻繁に使用されている深江方言を対象とし、筆者自身のフィールドワークに基づき、ダス形の使用条件と他の可能表現との関係について、以下の3点を示す。

- (i) ダス形が接続する動詞には開始の時間限界と意志性がなければならないという制限があること。よって、イキダスは容認されるがワスレダスなどは容認されない。
- (ii) ダス形の使用条件は「時間的不可能」と「実現できる合理的期待」の2つであること。よって、済ませなければならない用事があってお昼休みにご飯を食べることができない状況ではダス形は容認されるが、お腹いっぱいでお昼休みにご飯を食べることができないという状況ではダス形は容認されない。
- (iii) ダス形は可能の条件による分類ができない特殊な可能表現であるため、他の可能表現と同様の扱いで可能の条件スケールに位置付けることができないこと。苦手なので仕事ができないという能力可能でも、忙しくて仕事ができないという外的条件可能でも、(ii)に述べる2つの使用条件を満たすことができれば、ダス形が容認される。

本論文の構成は以下の通りである。2章で対象とする言語である深江方言について、3章

で可能表現の先行研究を提示する。筆者による調査で得られた結果は、まず4章で深江方言における可能表現の概観についてまとめ、5章で可能表現ダス形について、他の可能表現との関係も含めて記述する。6章でまとめと今後の課題を述べる。

2. 深江方言について

本研究が対象とする地域は長崎県南島原市深江町である。南島原市は長崎県の南端に位置し、島原市、雲仙市とともに島原半島を形成している。深江町は南島原市を構成する8つの町の1つで、北で島原市、西で雲仙市と接している。

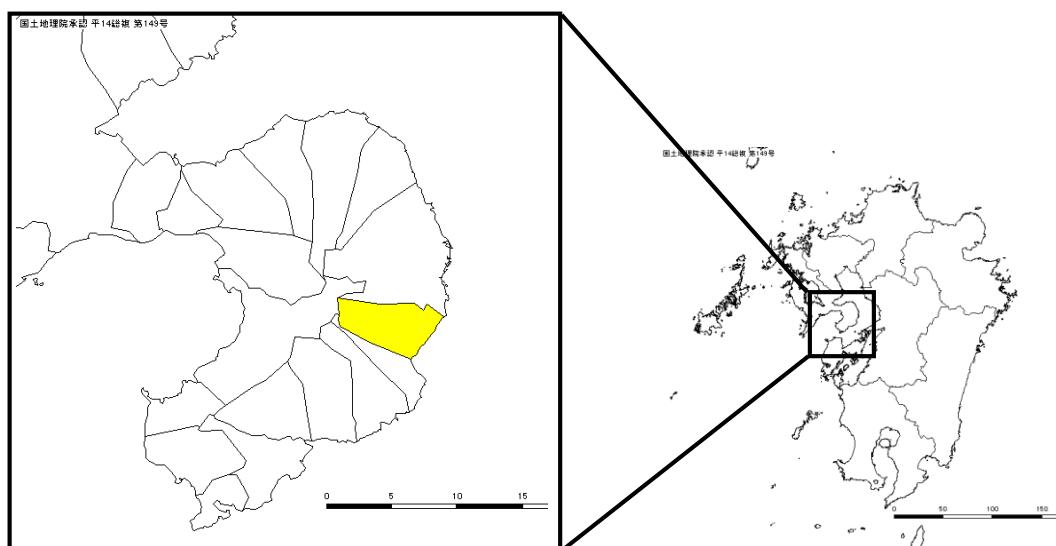


図1. 長崎県南島原市深江町の地図（黄色ハイライト部分）
[KenMap Ver9.2 を用いて筆者作成]

九州方言の方言区画に関して、東条（1966）による三分説（東条 1966: 27-29）に従うと豊日方言・肥筑方言・薩隅方言の3つに分類され、島原半島の方言は肥筑方言にあたる。肥筑方言は、肥前（佐賀・長崎県）と肥後（熊本県）、筑前・筑後（福岡県）の方言である。島原半島と島嶼の方言は肥筑方言のなかで最も特異である（上村 1983: 7）。

長崎方言の下位分類について、西島（1963）は、音韻・アクセント・語法・語彙などの相違と旧藩時代の行政区画をもとに對馬方言・壱岐方言・平戸方言（佐世保方言を含む）・大村方言・諫早方言・島原方言・長崎（市）方言・五島方言に分類している。

長崎県下の方言はアクセントの面から乙種アクセント・一型アクセント・甲種アクセントの3つにわけられ、島原方言は甲種アクセントである。

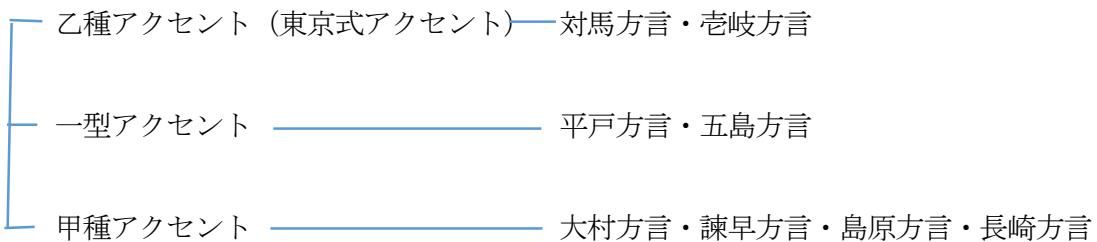


図 2. 長崎県の方言区画 (西島 1963: 34)

島原方言はその中でも、東京式アクセントの言語の島の存在 (古瀬 1970) や、佐賀方言系のことばが使われている地域がある (西島 1963: 34) などの理由から、細かい区分が必要となる。そのため古瀬 (1970) は、さらに島原方言を市町村の区画に沿って 29 方言に分類しており、深江方言はそのうちの 1 つとなっている。深江方言は甲種アクセントである。

3. 先行研究

3.1. 九州の可能表現

可能表現は、九州の多くの地域で、一定の動作が動作主体の能力に基づいて成就実現する能力可能と、一定の動作が動作主体の立つ客観的状況に支えられて成就実現する状況可能を異なった叙法によって表す (九州方言学会 1969: 274-275)。例えば、深江方言では主に能力可能としてキル(3)が、状況可能としてラルル(4)が使用されている。なお、(3)の *yomikiran* の分かち書きについては、4.1 節について詳述している。

(3)	<i>kon</i>	<i>honwa</i>	<i>kowakaken</i>	<i>yomi</i>	<i>kiran.</i>
	kon	hon=wa	kowa-ka=ken	yom-i	kir-a-n
	この	本=TOP	怖い-NPST=CSL	読む-THM	POT-THM-NEG
「この本は怖くて読むことができない。」					

(4)	<i>teiden</i>	<i>sityokken</i>	<i>kurakute</i>	<i>honba</i>	<i>yomaren.</i>
	teiden	s-i-te=or-ru=ken	kura-kute	hon=ba	yom-rare-n
	停電	する-THM-SEQ=PF-NPST=CSL	暗い-SEQ	本=ACC	読む-POT-NEG
「停電しているので暗くて本を読むことができない。」					

九州方言学会 (1969) によれば、能力可能の形式は肥後および日向北部を含む中・北部一帯で「～キル」を用い、島嶼を含む西北部一帯 (深江方言を含む) では「～キル」とともに「～ユル」も使用する。一方、状況可能の形式として中部以北では「ルル (ラルル)」が用いられる (九州方言学会 1969: 275)。

深江方言では能力可能としてキルとユルを用いるが、愛宕（1978）ではこの2つの形式について、「～キル」は問い合わせ表現を仕立てやすいが、「～ユル」にはそのような傾向はなく、「～キラン」は動作主体が表現者（話者）自身と重なるが、「～エン」は動作主体が相手や第三者でも良い（愛宕 1978: 142）と示している。

神部（1986）は「～ユル」は「～キル」よりも古い形式で、「～キル」は完遂・完行を表す「キル」が能力可能に転じたものであるとする。実際、愛宕（1978）でも、「～キル」は若年層中心、都市部中心で聞かれやすく、村部ではやや良いことばと意識されているという傾向が見られていると指摘する。

3.2. 可能の条件スケール

渋谷（1993）では、可能の意味をその（不）可能であることの制約条件（可能の条件）によって心情可能・能力可能・内的条件可能・外的条件可能・外的強制条件可能の5つに分けている。

(5) 心情可能：動作実現のための条件が主体の心情や性格にある。

夜のお墓なんか、こわくてとても行けない。[渋谷 1993: 27(3)]

(6) 能力可能：動作実現のための条件が主体の能力にある。

a. ぼくはからだが弱いから長くは出歩けない。（先天的）[渋谷 1993: 27(4)]

b. ぼくは一生懸命勉強したから十分英語が話せる。（後天的）[渋谷 1993: 27(5)]

(7) 内的条件可能：動作実現の条件が主体内部の一時的な気分的・肉体的条件にある。

今日は気分が悪いからあまりたくさんは食べられない。[渋谷 1993: 27(7)]

(8) 外的条件可能：動作実現の条件が主体を取り巻く外的 세계にある場合。外的条件には多くのものがある。

a. 今日の午前中は別の用事があるからその会合には出席できない。[渋谷 1993: 28(8)]

b. その魚は汚染されているから食べることはできない。[渋谷 1993: 28(9)]

(9) 外的強制条件可能：動作実現の条件が外部にあり、その条件が動作主体の意志の介入を全く許さない場合。

あの山をみるといつも故郷のことが思い出される。[渋谷 1993: 28(12)]

さらに、上の5つの可能の条件は「主体の力」と「主体の判断」、「永続性」という3つのパラメータの組み合わせによって整理することができる。主体の力、主体の判断の有無は以下の表のとおりである。

表 1. 可能の条件の 2 つのパラメータ (渋谷 1993: 31)

	主体の力	主体の判断
心情可能	+	(+)
能力可能	+	+
内的条件可能	+	+
外的条件可能	-	+
外的強制条件可能	-	-

永続性について、「動作主体の内在条件（心情・能力・内的）の永続性」という点では、心情>能力>内的の順に永続性があると考えられる。

さらにこの 3 つの基準は、「動作主体とそれぞれの条件との密着度（不可分性）」という観点から統一的に論ずることができる。

この観点に従うと、動作主体と密着した（不可分な）心情、動作主体の力・判断とともに及ぶ能力・内的条件、外的要因が動作の実現を左右するものの動作主体の客観的な判断の及ぶ外的条件、動作主体の力も判断も及ばない外的強制条件というように、心情を片方の極、外的強制条件をもう片方の極として、以下のように図示することができる。渋谷 (1993) ではこれを可能の条件スケールと呼ぶ。

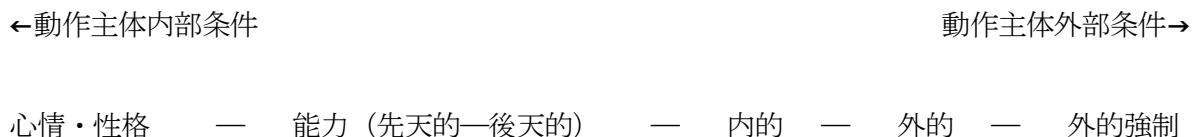


図 3. 可能の条件スケール (渋谷 1993: 32)

ただし、渋谷 (1993: 28) によると、外的強制条件可能は自発表現であり厳密に言えば可能の意味は表さない。可能表現の変遷過程に深く関わっていることと、可能と連続した意味を表すことより、可能の条件スケールにも位置付けられているが、本論では以降取り上げないこととする。

九州方言研究会 (2004) は長崎県福江市方言の可能表現について、渋谷 (1993) の可能の条件スケールを基に調査を行い表 2 のような結果を提示している。

表2. 長崎県福江市方言の可能の意味 (九州方言研究会 2004: 12)

	～キル	～ユル	～(ラ)ルル
能力可能	○	○	○
内的条件可能	○	○	○
外的条件可能	△	×	○

三形式のうち「～キル」は可能全般に使用されるが、「泳ぐ」「着る」「寝る」「食べる」のような動詞では外的条件可能に用いられることが少ない(九州方言研究会 2004: 12)。以下はそれぞれの形式を用いた例文である。

(10) ヨルノ ハカワ コワカケン ヒトリデハ イキキラン

[九州方言研究会 2004: 23(11011; 福江市)]

(11) (最近目が悪くなってきたので小さい字は) 読マエン

[九州方言研究会 2004: 190(c110402; 福江市)]

(12) (車がなかったのでそこへ) 行カレンジャッタ

[九州方言研究会 2004: 186(c220501; 福江市)]

深江方言の可能表現に注目している先行研究はないものの、古瀬(1970)による島原半島方言についての研究に、「可能表現に「走ラルッ」があるのに対し、その能力を表す「走ラユッ」がある。地域により能力の「走②キ②」も用いられる。「シーダサン」(やりださない)などの「ダス」が、忙しくて暇がない意味の可能表現に用いられる。」(古瀬 1970: 495)とあるように、島原半島でラルル・ユル・キル・ダスという可能形式が確認されている。

(13) 暗くて本を読まレン。[作例]

(14) 難しい本は読まエン。[作例]

(15) 難しい本は読みキラン。[作例]

(16) 忙しくて本を読みダサン。[作例]

3.3. 可能表現ダス形

ダス形はこれまで九州の各地で存在が指摘されてきた。先行研究は各地域で見られるダス形を以下のように意味づけている。

- (17) a. ～する余裕がない (寺師 1961; 奄美大島)
b. 時間的・経済的不可能を表す (否定のみ) (河合 1966; 大分市鶴崎)
c. 能力可能 (古瀬 1983; 五島)
d. 外的状況—話者自身にかかる人為的状況および外境の物理的状況—を突破排除する機会を得るか否かに焦点をおく表現法で、強いて言えば機会可能 (神部 1986; 九州一般)

渋谷 (1993: 215) は九州における可能表現ダス形についてこれらの先行研究を踏まえた上で、地域差ということを考慮しても外的条件可能を表すとみなしたほうがよさそうであるとしている。

さらに、船木 (2002: 320-323) は天草方言に見られる可能表現ダス形について、生起する環境を以下のように記述している。

- (18) a. 動詞連用形に後接する。
b. 存在動詞「ある」などとは意味的に共起しない。
c. 本動詞「出す」や補助動詞「だす」とは共起しにくい。
d. 能力可能にも外的条件可能にも使用できるが、明らかな外的条件可能の際はルルが優先的に選択される。
e. 肯定表現 (可能) でも使えるが基本的に否定表現 (不可能) で用いられる。
f. 過去時のほうが使われやすい。

典型的な共起副詞は、可能の場合「やっと」や「ようやく」、不可能の場合「とうとう」「なかなか」を挙げている。

アスペクト的特徴として、ダスは動作の開始および完遂の意味を保持しているため、アスペクトに関わる補助動詞「だす」から発展した可能表現形式であると思われる。また、ムード的には行為主体の努力が必須で、努力の末に、なんとか、ぎりぎり可能になる、あるいは努力の甲斐なく残念ながら不可能になる (船木 2002: 323) としている。

3.4. 問題点

前述したように、ダス形は九州の各地域で確認されているが、いずれについても意味のみが示されており例文も少なく、ダス形について使用条件や他の可能表現との使い分けなどを網羅的に記述した先行研究は少ない。渋谷 (1993: 215) は外的条件可能とみなした方が良いとしているが、その根拠もデータも乏しい。船木 (2002) はダス形の生起する環境やアスペクト・ムード的特徴を詳細に記述しているが、これはインフォーマントの接してきた老年層話者のダス形使用の記憶をもとにした記述となっており、インフォーマント自

身がダス形を使用するかは不明であるため、正確な記述とは言い難い。

そのため、未だ網羅的な研究がされていない可能表現ダス形について、ダス形が他の地域に比べ頻繁に使用されている深江方言で、使用条件や他の可能表現との使い分けを調べることにより網羅的に記述する。

3.5. 次章以降で扱うデータについて

次章以降で示すデータは筆者自身による調査で収集したものである。対象話者は、深江町在住の話者2名である。詳細は以下の表3に記載する。調査票を用いた電話による調査を行った。調査票は本論文末尾に、その結果とともに添付する。

表3. 対象話者情報

話者	T.K 氏	J.H 氏
年代	70代	70代
性別	女性	女性
外住歴	なし	なし

4. 深江方言の可能表現の概観

4.1. 可能表現の形式面の整理

深江方言に見られる可能表現として以下の4つを認める。

(19) 「行くことができない」

- a. キル¹ *iki* *kiran*
 ik-i kir-a-n
 行く-THM POT-THM-NEG

- b. ラルル *ikaren*
 ik-rare-n
 行く-POT-NEG

¹ *sii kir-a-n* (することができない) のように、最小語制約によって母音の延長が起きる場合がある。

c.	ユル	<i>ika</i>	<i>en</i>
		<i>ik-i=wa</i>	<i>e-n</i>
		行く-THM=TOP	POT-NEG

d.	ダス	<i>ikidasan</i>	
		<i>ik-i-das-a-n</i>	
		行く-THM-POT-THM-NEG	

カナで記した形式名はラベルであり、形態素としては音韻表記された例文において POT とグロスを付したものである。(19a)キルと(19c)ユルは、服部 (1950: 13-15) に則って附属形式ではなく附属語として扱う。服部 (1950: 13) は「二つの形式の間に別の単語が自由に現れる場合には、その各々は自由形式である。」と述べている。例えば、「白くない」は *siroku wa nai, siroku mo nai* のように、「白く」と「ない」の間には助詞を入れることができたため 2 つは自由形式、すなわち附属語である。一方、「読まない」は**yoma-wa-nai, *yomi-mo-nai* となることはないため、附属形式である (服部 1950: 13-15)。

以上の判定法によると、(19a)キルについて、*iki kiran* は深江方言では *iki mo kiran* のように間に助詞を入れることができ、(19c)ユルについても同様に、*iki mo en* のように助詞を入れて使用されることがあるため、それぞれ接辞ではなく附属語として扱うことが妥当である。

さらに(19c)のユルの接続について、子音語幹動詞であれば、必ずトピックマーカーである *wa* (TOP とグロスを付す) が融合して現れる。母音語幹動詞や「する」「来る」のような変格活用動詞は *wa* と融合する形は取らず、融合せずに *wa* が付く、もしくは付かない形式のみが存在する。

(20)	子音語幹動詞「行く」
	<i>ika</i>
	<i>en</i>
	<i>ik-i=wa</i>
	<i>e-n</i>
	行く-THM=TOP POT-NEG
	「行くことができない」

(21)a.	母音語幹動詞「食べる」
	<i>tabewa</i>
	<i>en</i>
	<i>tabe=wa</i>
	<i>e-n</i>
	食べる=TOP POT-NEG
	「食べることができない」

b. 母音語幹動詞「食べる」

tabe *en*

tabe e-n

食べる POT-NEG

「食べることができない」

4.2. 可能表現の機能面の整理

以下に、深江方言における可能表現の機能面の概観を示す。可能の条件スケール（渋谷 1993: 32）の条件に沿うように例文を作成し、すべて不可能表現で調査を行った。なお、結論を先取りする形で述べれば、ダス形の使用範囲を記述する上で、外的条件可能を下位区分することが重要である。すなわち、主体を取り巻く外部の条件には自分だけに降りかかり、自身によって変更可能である**主観的外的条件可能**(22)と、自分では変えようのない**客観的外的条件可能**(23)の2つに分類できる。

(22) 用事があるのでお昼ご飯を食べることができない。[作例]

(23) ご飯が腐っているので食べることができない。[作例]

調査結果の第一回答のみを取り上げると表4のようになる。また、それぞれの条件ごとに例文を挙げる。

表4. 条件ごとの第一回答

心情・性格	能力	内的条件	主観的外的条件	客観的外的条件
キル	キル	キル	ダス	ラルル

(24) 心情可能

yoruno *hakawa* *kowakute* *iki* *kiran.*

yoru=no *haka=wa* *kowa-kute* *ik-i* *kir-a-n*

夜=GEN 墓=TOP 怖い-SEQ 行く-THM POT-THM-NEG

「夜の墓は怖くて行くことができない。」

(25) 能力可能

<i>asino</i>	<i>warukaken</i>	<i>tooka</i>	<i>yuubinkyokuniwa</i>
asi=no	waru-ka=ken	too-ka	yuubinkyoku=ni=wa
足=NOM	悪い-NPST=CSL	遠い-NPST	郵便局=DAT=TOP

<i>iki</i>	<i>kiran.</i>
ik-i	kir-a-n
行く-THM	POT-THM-NEG

「足が悪いので遠い郵便局には行くことができない。」

(26) 内的条件可能

<i>kyoowa</i>	<i>guaino</i>	<i>warukaken</i>	<i>iki</i>	<i>kiran.</i>
kyoo=wa	guai=no	waru-ka=ken	ik-i	kir-a-n
今日=TOP	具合=NOM	悪い-NPST=CSL	行く-THM	POT-THM-NEG

「今日は具合が悪いので行くことができない。」

(27) 主観的外的条件可能

<i>kyoowa</i>	<i>yoozino</i>	<i>aruken</i>	<i>ikidasan.</i>
kyoo=wa	yoozi=no	ar-ru=ken	ik-i-das-a-n
今日=TOP	用事=NOM	ある-NPST=CSL	行く-THM-POT-THM-NEG

「今日は用事があるので行くことができない。」

(28) 客観的外的条件可能

<i>kyoowa</i>	<i>yuubinkyokuno</i>	<i>yasumiyaken</i>	<i>ikaren.</i>
kyoo=wa	yuubinkyoku=no	yasumi-yar-Ø=ken	ik-rare-n
今日=TOP	郵便局=NOM	休み=COP-NSPT=CSL	行く-POT-NEG

「今日は郵便局が休みなので行くことができない。」

キルは心情・性格から内的条件、ラルルは客観的外的条件で第一回答として使用される。

キルは能力可能、ラルルは状況可能の意味を強く持っていることがわかる。

また、ユルが第一回答として出ることはほとんどなく、深江方言ではユルよりキルが選択されやすい。

主観的外的条件で使用されたダス形については後述する。他の可能表現については可能の条件スケールに位置付けられるか不明だが、先行研究に合わせ、深江方言におけるキル・ユル・ラルル（第一回答以外も含む）を位置付けると図4のようになる。

	心情・性格	能力	内的条件	主観的 外的条件	客観的 外的条件
キル					
ユル					
ラルル					

図4. 深江方言における可能表現の概観

状況設定により動詞ごとに少々差は出るもの、おおよそキルは心情・性格から主観的外的条件、ユルは心情・性格から内的条件、ラルルは能力から客観的外的条件に用いられる。

5. 可能表現ダス形

5.1. 形式面の整理

ダス形は以下の3つの要件により接辞-das であると分析する。

① dasan が s 語幹動詞と同じふるまいで否定をとること

s 語幹動詞は、深江方言では(29)のように否定を表す。

(29) a. *hanasan*

hanas-a-n

話す-THM-NEG

「話さない」

b. *kaesan*

kaes-a-n

返す-THM-NEG

「返さない」

「食べダサン」は「食べることができない」という不可能の意味をとることから、dasan も s 語幹動詞と同じふるまいをする否定形であると考えることで、das と捉えることができる。

次なる問題は、この形態素 das が、附属語か複合語根か接辞かという点である。そこで、以下の②③から、これを接辞と認定する。

② 動詞と dasan の間に助詞が入らないこと

服部 (1950: 13-15) による、「二つの形式の間に別の単語が自由に現れる場合には、その各々は自由形式である。」という原則より、「食べダサン」について、tabe と dasan の間には wa などの助詞が入らないため、tabedasan で 1 つの語をなすことがわかる。

③ 複合動詞の後部要素か接辞かという問題

das は船木 (2002) が言うように、複合語根ダス「～出す」が由来となっている。文法化によって、現在は複合語根としての性質と接辞としての性質が混在している。

複合語根としての特徴は、das が(30)のように語幹拡張辞を取れるという点である。語幹拡張辞は語根と屈折接辞をつなぐ役割を果たすため、この性質は das が語根であることを根拠づける。

(30) *ikidasan*

ik-i-das-a-n

行く-THM-POT-THM-NEG

「行くことができない」

また、「行きだしダサン」「食べだしダサン」のように開始アスペクトを意味する複合動詞語根「だす」と共起することはできないという点からも das が語彙的資源としての性質（複合語根としての性質）を保持していると言える。

接辞としての特徴は、das が固定された順序で生じる点である。(31)は動詞の基本構造である。

(31) 語根(-CAUS)(-PASS)(-HON)-屈折接辞

複合語根であれば、語根として、以下のようにその前にも後にも CAUS を取ることができる。

(32) a. *tabesasetuzukeru*

tabe-sase+tuzuke-ru

食べる-CAUS+続ける-NPST

「食べさせ続ける」

- b. *tabetuzukesaseru*
 tabe+tuzuke-sase-ru
 食べる+続ける-CAUS-NPST
 「食べ続けさせる」

一方、ダス形を使用する際、以下のように das の後に使役接辞を取ることはできない。すなわち、das 自身は複合語根としての性質を失い、上記(31)の接辞のスロットとして固定化された出現位置を占めるようになっている。

- (33) a. *tabesasedasan*
 tabe-sase-das-a-n
 食べる-CAUS-POT-THM-NEG
 「食べさせることができない」
- b. **tabedasasen*
 *tabe-das-sase-n
 *食べる-POT-CAUS-NEG
 「*食べさせることができない」

ダス形が出現する際の形について、以下のように定めることができる²。なお、尊敬-rass を含む例文は(44)に記載している。

- (34) [語幹核 (-使役) (-可能) (-尊敬)] -語幹拡張 -否定
 tabe (-sase) (-das) (-rass) -a -n

このように、das が複合動詞の後部要素であるか接辞であるか決め難い点があるが、本論文では、das が固定された順序で発生する点を重視して、ひとまず接辞として扱う。

また、動詞へのダス形の接続は動詞の語幹によって異なる。動詞の語幹末が子音の場合、語幹拡張辞-i を取りダス形に接続する。

² -受動(-PASS)は、(31)のように動詞の基本構造のうち-使役(-CAUS)の後に入るが、ダス形と共に起できる例文を見つけることができなかつたため、構造内に入れていない。

表 5. ダス形の動詞ごとの接続

語幹末	例	
子音	ik- 「行く」	ik-i-das-a-n
母音	mi- 「見る」	mi-das-a-n
	tabe- 「食べる」	tabe-das-a-n

5.2. ダス形が接続できる動詞

ダス形の形式的特徴の1つとして、ダス形が接続できる動詞に制限がある点が挙げられる。特に、語彙的アスペクトに関して制限が見られる。この点は、次節で議論するダス形の意味的特徴と関連があると考えられる。

工藤（2014）は、アスペクトの観点から動詞を下位分類している。下位分類は以下の6つで、動詞は例示である。

- ①主体動作客体変化動詞…切る、壊す、取る、開ける、たたむ
- ②主体変化主体動作動詞…来る、行く、座る、立つ、入る、着替える、脱ぐ
- ③主体変化動詞…消える、腐る、繋がる、落ちる
- ④主体動作動詞…動かす、燃やす、食べる、言う、話す
- ⑤現象（動き）動詞…飛ぶ、泣く、笑う、輝く、降る、燃える
- ⑥状態動詞…冷える、思う、分かる、祈る、感動する、感じる、疲れる

まず動詞は、①～⑤の運動動詞と⑥の状態動詞に大別される。⑥状態動詞は＜完成＞と＜継続＞のアスペクト対立がなく、動的展開性もない。

アスペクトの観点から見た運動動詞の下位分類は、「終了、開始の＜時間限界＞のあり様」が重要になる。また、この＜時間限界＞のあり様には、客体における変化の有無と主体の意志性の有無も絡み合っており、動詞はこれら3つの観点から分類される。

①～⑤の動詞のうち、もっとも動詞らしい動詞に位置付けられるものが①主体動作客体変化動詞である。主体における動作の側面と客体における変化の側面の両方を捉えている。また、意志的動作の起動である開始限界と客体の変化の達成である終了限界の両方を視野に入れるため、＜完成性＝ひとまとまり性＞を表す。

②主体変化主体動作動詞は自らに変化をもたらす主体の意志的動作を表す。①主体動作客体変化動詞と同様に、開始限界と必然的終了限界の両方を視野に入れた＜完成性＝ひとまとまり性＞を表すが、片方だけが焦点化されることもある。

③主体変化動詞は、主体の観点から変化だけを捉えている動詞である。①主体動作客体変化動詞（他動詞）に対応する自動詞がこれにあたる。無意志的で必然的終了限界が焦点化される。

④主体動作動詞は動作だけを捉えている動詞で、客体や主体の変化を捉えていないため、必然的終了限界もない。意志的動作であるため開始限界のみが焦点化される。

⑤現象（動き）動詞は④主体動作動詞と⑥状態動詞の間に位置付けられる動詞である。客体への働きかけも意志性もない自動詞であるが、⑥状態動詞よりアスペクト対立はぼやけていない。

開始限界、必然的終了限界と客体の変化、意志性の有無をそれぞれ表に整理すると、表6のようになる。

表6. 工藤（2014）の動詞の分類と性質

	開始限界	必然的終了限界	客体の変化	意志性
①主体動作客体変化動詞	+	+	+	+
②主体変化主体動作動詞	+	+	-	+
③主体変化動詞	-	+	-	-
④主体動作動詞	+	-	-	+
⑤現象動詞	+	-	-	-
⑥状態動詞	-	-	-	-

このうちダス形が接続できる動詞は、①主体動作客体変化動詞、②主体変化主体動作動詞、④主体動作動詞の3つである。これらに共通しているのは「開始限界」と「意志性」がどちらもある点である。

さらに、調査で得られた結果のうち、キルやラルルなどの他の可能表現には接続できるがダス形は接続できない動詞として、泣く・笑う・思う・感じるなどの動詞が挙げられる。この結果から、意志性ではなく自発性のある動詞にはダス形は使用できないことが分かる。

つまり、ダス形は「開始の時間限界があり、かつ意志性がある動詞」に接続する。

5.3. 可能表現ダス形の使用条件

次に可能表現ダス形の使用条件について示す。ダス形の使用条件として以下の2つを設定する。

- (I) 時間的不可能
- (II) 実現できる合理的期待があること

以下、5.3.1項で(I)時間的不可能の条件について説明し、5.3.2項で(II)実現できる合理

的期待の条件について述べる。

5.3.1. 時間的不可能

ダス形は「忙しく暇がないとき」（古瀬 1970: 495）、つまり時間がないときや「時間的・経済的不可能」（河合 1966: 103）に用いられると先行研究では示されている。それらの変数で調査を行った結果、深江方言におけるダス形は、経済的不可能には用いられないことがわかった。

(35)	<i>imawa</i>	<i>kanen</i>	<i>nakaken</i>	<i>hukuwa</i>
	ima=wa	kane=n	na-ka=ken	huku=wa
	今=TOP	金=NOM	ない-NPST=CSL	服=TOP

{**kaidasan*/ *kaw-rare-n*/
{**kaw-i-das-a-n*/ *kaw-rare-n*/
{*買う-THM-POT-THM-NEG/ 買う-POT-NEG /

kai *kiran*/ *kawa* *en*.
kaw-i *kir-a-n*/ *kaw-i=wa* *e-n*
買う-THM POT-THM-NEG/ 買う-THM=TOP POT-NEG}

「今はお金がないので洋服を買うことができない。」

(36)	<i>gosenenzya</i>	<i>kon</i>	<i>hukuwa</i>
	gos+en+en=de=wa	kon	huku=wa
	5000+円=INST=TOP	この	服=TOP

{**kaidasan*/ *kawaren*/
{**kaw-i-das-a-n*/ *kaw-rare-n*/
{*買う-THM-POT-THM-NEG/ 買う-POT-NEG /

kai *kiran*/ *kawa* *en*.
kaw-i *kir-a-n*/ *kaw-i=wa* *e-n*
買う-THM POT-NEG/ 買う-THM=TOP POT-NEG}

「5000円ではこの洋服は買うことができない。」

一方、以下の例文のように、時間的に不可能な際にダス形は用いられるため、ダス形の

使用条件として、何らかの状況によって行為を実行する時間がなくなっていることを指す「時間的不可能」を挙げることができる。

(37)	<i>kyoowa</i>	<i>yoozin</i>	<i>aiken</i>	<i>siyakusyoni</i>
	<i>kyoo=wa</i>	<i>yoozi=n</i>	<i>ar-ru=ken</i>	<i>siyakusyo=ni</i>
	今日=TOP	用事=NOM	ある-NPST=CSL	市役所=DAT

{*ikidasan* / *ikaren* /
 {*ik-i-das-a-n* / *ik-rare-n* /
 {行く-THM-POT-THM-NEG/ 行く-POT-NEG/

iki *kiran* / *ika* *en}yo.*
 ik-i kir-a-n / ik-i=wa e-n}=yo
 行く-THM POT-THM-NEG/ 行く-THM=TOP POT-NEG}=SFP

「今日は用事があるので市役所に行くことができない。」

なお、調査の中で「車がパンクしていたので」という条件でもダス形が使用できた。しかし容認度は低く、時間に間に合わないという要素を含むと容認度が高くなつたため、「車のパンクを直してから行くには時間がない」という意味でダス形が使用されているといえる。

(38) a.	<i>kuruman</i>	<i>panku</i>	<i>sityottaken</i>	<i>siyakusyoni</i>
	<i>kuruma=n</i>	<i>panku</i>	<i>si-te=or-ta=ken</i>	<i>siyakusyo=ni</i>
	車=NOM	パンク	する-SEQ=PF-PST=CSL	市役所=DAT

{?*ikidasan* / *ikaren* /
 {?*ik-i-das-a-n* / *ik-rare-n* /
 {?*行く-THM-POT-THM-NEG* / 行く-POT-NEG/

iki *kiran* / *ika* *en}yatta.*
 ik-i kir-a-n / ik-i=wa e-n}=yar-ta
 行く-THM POT-THM-NEG/ 行く-THM=TOP POT-NEG}=COP-PST

「車がパンクしていたので市役所に行くことができなかつた。」

b.	<i>kuruman</i>	<i>panku</i>	<i>sityottaken</i>	<i>zikanno</i>	<i>nakute</i>
	kuruma=n	panku	si-te=or-ta=ken	zikan=no	na-kute
	車=NOM	パンク	する-SEQ=PF-PST=CSL	時間=NOM	ない-SEQ
	<i>siyakusyon</i>	{ <i>ikidasan</i> /		<i>ikaren</i> /	
	<i>siyakusyo</i> =ni	{ik-i-das-a-n /		ik-rare-n /	
	市役所=DAT	{行く-THM-POT-THM-NEG/	行く-POT-NEG/		
	<i>iki</i>	<i>kiran</i> /	<i>ika</i>	<i>en}yatta.</i>	
	ik-i	kir-a-n /	ik-i=wa	e-n}=yar-ta	
	行く-THM	POT-THM-NEG/	行く-THM=TOP	POT-NEG}=COP-PST	
	(車がパンクしていて、その修理をするとしたら市役所が閉まる前に着かない と判断して)				
	「車がパンクしていたので時間がなくて市役所に行くことができなかつた。」				

5.3.2 実現できる合理的期待があること

ダス形の使用条件「時間的不可能」を満たすの例文の中に、ダス形が使用できない例文がある。時間的不可能の中で、ダス形が容認される状況と容認されない状況には以下のようない違がある。

(39a)は自分の予定を調整することでできる可能性があるため、努力次第で可能になる状況であり、この時はダス形が使用できる。一方、(39b)は自分がどれだけ頑張っても市役所が10分後に閉まってしまうため、自分の行動ではどうにもならない状況であり、この時ダス形は容認されない。

(39) a. <i>kyoowa</i>	<i>isogasyuusite</i>	<i>zikanno</i>	<i>nakaken</i>
<i>kyoo=wa</i>	<i>isogasi-u=si-te</i>	<i>zikan=no</i>	<i>na-ka=ken</i>
今日=TOP	忙しい-SEQ=LV-SEQ	時間=NOM	ない-NPST=CSL

{*sidasan* / *saren* /
 {s-i-das-a-n / s-rare-n /
 {する-THM-POT-THM-NEG/ する-POT-NEG/

sii *kiran* / *siwa* *en}yo.*
 s-i kir-a-n / s-i=wa e-n}=yo
 する-THM POT-THM-NEG/ する-THM=TOP POT-NEG}=SFP
 (書類を市役所に今日中に提出するように頼まれて、)
 「今日は忙しくて時間がないからできないよ。」

b. <i>kyoowa</i>	<i>moo</i>	<i>zikanno</i>	<i>nakaken</i>
<i>kyoo=wa</i>	<i>moo</i>	<i>zikan=no</i>	<i>na-ka=ken</i>
今日=TOP	もう	時間=NOM	ない-NPST=CSL

{**sidasan* / *saren* /
 {*s-i-das-a-n / s-rare-n /
 {*する-THM-POT-THM-NEG/ する-POT-NEG/

sii *kiran* / *siwa* *en}yo.*
 s-i kir-a-n / s-i=wa e-n}=yo
 する-THM POT-THM-NEG/ する-THM=TOP POT-NEG}=SFP
 (書類を車で 30 分かかる場所にある市役所に今日中に提出するように、市役所が閉まる 10 分前に頼まれて、)
 「今日はもう時間がないからできないよ。」

同じ例文でも、状況によってダス形の容認度は変わる。(40a)(40b)において、仕事の中で時間の融通が利く場合はダス形が使用できるが、融通が利かない場合にダス形は容認されない。

(40) a.	<i>kyoowa</i>	<i>itintizuu</i>	<i>sigoton</i>	<i>attaken</i>
	kyoo=wa	itintizuu	sigoto=n	ar-ta=ken
	今日=TOP	一日中	仕事=NOM	ある-PST=CSL

{sidasan /
{s-i-das-a-n /
{する-THM-POT-THM-NEG/ する-POT-NEG/

sii *kiran /* *siwa* *en}yo.*
s-i *kir-a-n /* *s-i=wa* *e-n}=yo*
 する-THM POT-THM-NEG/ する-THM=TOP POT-NEG}=SFP
 (他の仕事のついでに行ける時間はつくればあった)
 「今日は一日中仕事があったのでできなかつた。」

b.	<i>kyoowa</i>	<i>itintizuu</i>	<i>sigoton</i>	<i>attaken</i>
	kyoo=wa	itintizuu	sigoto=n	ar-ta=ken
	今日=TOP	一日中	仕事=NOM	ある-PST=CSL

*{*sidasan /*
*{*s-i-das-a-n /*
*{*する-THM-POT-THM-NEG/* する-POT-NEG

sii *kiran /* *siwa* *en}yo.*
s-i *kir-a-n /* *s-i=wa* *e-n}=yo*
 する-THM POT-THM-NEG/ する-THM=TOP POT-NEG}=SFP
 (仕事の予定が詰まっていて時間をとる猶予もなかつた)
 「今日は一日中仕事があったのでできなかつた。」

なお、先行研究では、「努力したにも関わらず」（神部 1986: 14）、「ムード的には行為主体の努力が必須」（船木 2002: 323）などのように、ダス形がもつ意味として行為者の努力を挙げている。これは言い換えれば、当該の動作の実現に向けて動作主側に何らかの調整や事前準備、試行などがあるということである。(41a)はこのような意味における努力があると言えるが、(41b)の例文ではそれがない。ところが、ダス形が容認されると予測される(41a)で容認されず、むしろダス形が容認されないと予測される(41b)で容認されることから、努力というファクターが関与的であるとの一般化は成り立たない。

- (41) a. *gohanba* {**tabedasan* / *taberaren* /
gohan=ba {**tabe-das-a-n* / *tabe-rare-n* /
ご飯=ACC {**食べる-POT-THM-NEG* / 食べる-POT-NEG/
- tabe* *kiran* / *tabe* *en}yo.*
tabe *kir-a-n* / *tabe* *e-n}yo*
食べる POT-THM-NEG/ 食べる POT-NEG}={SFP
(昼休みを取れるように仕事を頑張ったが、結局終わらずに昼休みがつぶれ
てしまって、)
「ご飯を食べることができなかつた。」
- b. *gohanba* {*tabedasan* / *taberaren* /
gohan=ba {*tabe-das-a-n* / *tabe-rare-n* /
ご飯=ACC {*食べる-POT-THM-NEG* / 食べる-POT-NEG/
- tabe* *kiran* / *tabe* *en}yo.*
tabe *kir-a-n* / *tabe* *e-n}yo*
食べる POT-THM-NEG/ 食べる POT-NEG}={SFP
(仕事をしていたら昼休みがなくなってしまって、)
「ご飯を食べることができなかつた。」

また、以下の(42)(43)も行為者の努力は含まれていないが、ダス形が使用できる。(42)(43)の例文に共通することとして、「待っていたら時間内に動作を実行できる可能性はある」という点が挙げられる。待っていても実行できないことがわかっているとき、またはそう推定されるときはダス形が容認されない。

- (42) *tuukoodomeno* *kaizyoba* *mattyottara* *tootoo*
 tuukoodome=no kaizyo=ba mat-te=or-tara tootoo
 通行止め=GEN 解除=ACC 待つ-SEQ=PF-COND とうとう
- {ikidasan /* *ikaren /*
{ik-i-das-a-n / *ik-rare-n /*
{行く-THM-POT-THM-NEG/ 行く-POT-NEG/
- iki* *kiran /* *ika* *en}yatta.*
 ik-i kir-a-n / ik-i=wa e-n}=yar-ta
 行く-THM POT-THM-NEG/ 行く-THM=TOP POT-NEG}=COP-PST
 (家の前の道で通行止めが起こっているが、そこを通らなければ外に出ることが
 できない)
 「通行止めの解除を待っていたらとうとう行くことができなかつた。」
- (43) *syokudooga* *akutoba* *mattyottara* *tootoo*
 syokudoo=ga ak-ru=to=ba mat-te=or-tara tootoo
 食堂=NOM 空く=FMN=ACC 待つ-SEQ=PF-COND とうとう
- {tabedasan /* *taberaren /*
{tabe-das-a-n / *tabe-rare-n /*
{食べる-POT-THM-NEG / 食べる-POT-NEG /
- *tabe* *kiran /* **tabe* *en}yatta.*
**tabe* *kir-a-n /* **tabe* *e-n}=yar-ta*
**食べる* POT-THM-NEG / **食べる* POT-NEG }=COP-PST
 「食堂が空くのを待っていたらとうとう食べることができなかつた。」

以上より、努力は使用条件ではないが、自身の努力次第では実現できる可能性があることや、待つことによって実現できる余地が残っていると話者が判断していることが条件になつてゐるといえる。

そこで、条件をより抽象的な「実現できる合理的期待がある」とすると、努力が必須であるとする指摘を、「実現できるかもしれない」という期待から努力をしたが結果としてできなかつた」と捉え直すことができる。実現できる合理的期待を使用条件とすることで、先行研究の指摘を内包したうえで、先行研究の条件では説明がつかなかつた例文までも説

明することができる。

なお、実現できることへの期待を持つか否かは、切迫した時間の中で行為が実行できるか否かの判断に関わるものであるため、動作主の能力にも絡んでくる。動作主の能力は他者による断定はできないため、動作主以外が主語の場合には「らしい」「だろう」のような判断の表現を必要とする。

(44)	<i>an</i>	<i>hitowa</i>	<i>ima</i>	<i>isogasikaken</i>
	an	hito=wa	ima	isogasi-ka=ken
	あの	人=TOP	今	忙しい-NPST=CSL

sidasassanyaroo.

s-i-das-rass-a-n=yar-oo

する-THM-POT-HON-THM-NEG=COP-INFR

「あの人は今忙しいからできないでしょう。」

5.3.3. ダス形の語用論的効果

5.3.1 項と 5.3.2 項で述べてきたダス形の使用条件より、ダス形は「行為の実現を阻害している状況を排除できたかもしれないが、結局時間の限界が来てしまい不可能だった」という意味を持つと結論づけることができる。これによって、以下のような語用論的特徴をうまく説明できる。

話者によると、ダス形を使用する際は「頼まれたことができていないとき、言い訳のようなニュアンスを含む」という。例えば以下のような状況である。

- (45) *kyoowa* *isogasikattaken*
 kyooo=wa isogasi-katta=ken
 今日=TOP 忙しい-PST=CSL

{*sidasan* / *saren* /
 {s-i-das-a-n / s-rare-n /
 {する-THM-POT-THM-NEG/ する-POT-NEG/

sii *kiran* / *siwa* *en}yattatosa.*
 s-i kir-a-n / s-i=wa e-n}=yar-ta=to=sa
 する-THM POT-THM-NEG/ する-THM=TOP POT-NEG}=COP-PST=SFP=SFP
 (用事を頼まれていたが終わっておらず、なんで終わっていないのかと聞かれて)
 「今日は忙しくてできなかつたんだよ。」

ダス形を使用する際の条件は「時間的不可能」と「実現できる合理的期待」の2つである。合理的期待があったという条件が「自分はやる気はあった」、時間的不可能という自分のせいではない外的条件があったという条件が「時間さえあればできた」という言い訳のニュアンスをつくっていると説明できる。

5.4. ダス形のアスペクト的特徴

可能表現のダス形は、アスペクトに関わる補助動詞「だす」が発展してできた形式（船木 2002: 323）である。そのためダス形は、基本的に開始のアスペクトを持つ。

(46)の例文は一見完遂の意味を保持しているように見えるが、料理がたくさんある中で時間がないために他の料理には手をつけられないという状況では使用できるが、一皿の料理を食べている途中で、時間がないから食べることができないという状況では使用できない。

- | | | | | |
|------|--------------|----------------------|----------------|----------------|
| (46) | <i>kogan</i> | <i>nokottyokkedo</i> | <i>zikanno</i> | <i>nakaken</i> |
| | kogan | nokor-te=or-ru=kedo | zikan=no | na-ka=ken |
| | こんなに | 残る-SEQ=PF-NPST=ADVRS | 時間=NOM | ない-NPST=CSL |

{tabedasan /	taberaren /
{tabe-das-a-n /	tabe-rare-n /
{食べる-POT-THM-NEG /	食べる-POT-NEG /

<i>tabe</i>	<i>kiran</i> /	<i>tabe</i>	<i>en}yo.</i>
<i>tabe</i>	<i>kir-a-n</i> /	<i>tabe</i>	<i>e-n}yo</i>
食べる	POT-TIM-NEG /	食べる	POT-NEG1-SEP

「こんなに残っているけど時間がないから食べることができないよ。」

つまり、「食べる」という行為の中に区切りがあり、動作の再開が必要な際はダス形の使用が容認されるため、開始のアスペクトを保持している。

5.5. ダス形と他の可能表現の比較

調査の結果、(47)のようにダス形が容認されない文ではキルやラルルを使うが、ダス形が容認される文でキルやラルルが使用できないという文はなかった。(48)の例文でも、ダス形が容認されるときは他の可能表現も容認される。

- (47) *kinookara* *syuttyoode* *dekaketyoiken* *siyakusyoniwa*
 kinoo=kara syuttyoo=de dekake-te=or-ru=ken siyakusyo=ni=wa
 昨日=ABL 出張=INST 出かける-SEO=PF-NPST=CSL 市役所=DAT=TOP

{*ikidasan /	ikaren /
{*ik-i-das-a-n /	ik-rare-n /
{*行<-THM-POT -THM-NEG/	行<-POT-NEG/

<i>iki</i>	<i>kiran/</i>	<i>ika</i>	<i>en}.</i>
ik-i	kir-a-n /	ik-i=wa	e-n}
行<-THM	POT-THM-NEG/	行<- THM=TOP	POT-NEG}

「昨日から出張で出かけているので市役所には行くことができない。」

(48)	<i>kyoowa</i>	<i>sigoton</i>	<i>aiken</i>	<i>siyakusyonika</i>
	<i>kyoo=wa</i>	<i>sigoto=n</i>	<i>ar-ru=ken</i>	<i>siyakusyo=ni=wa</i>
	今日=TOP	仕事=NOM	ある-NPST=CSL	市役所=DAT=TOP

{*ikidasan* / *ikaren* /
 {*ik-i-das-a-n* / *ik-rare-n* /
 {行く-THM-POT-THM-NEG/ 行く-POT-NEG/

iki *kiran* / *ika* *en*.
ik-i *kir-a-n* / *ik-i=wa* *e-n*}
 行く-THM POT-THM-NEG/ 行く-THM=TOP POT-NEG}

「今日は仕事があるので市役所に行くことができない。」

調査の結果より、キル・ラルルとダス形の関係は図5のようになるといえる。

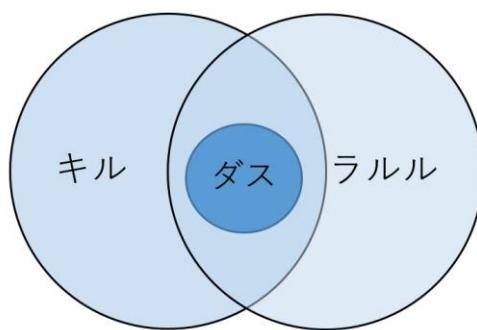


図5. キルとラルル、ダスの関係

なおユルについては、話者にとって頻繁に使用する可能表現ではなく、同じ能力可能であるキルが選択されやすいため、ここでは取り上げないこととする。

ダス形が使用できる文脈では、キル・ラルルのどちらの形式も使用できる。これは、「時間的不可能」という外的条件が状況可能を表すラルルを容認し、一方で、完全な不可能ではなく「時間が切迫している中で自身の努力次第では実現できるかもしれない」ので、自身で可能にする余地があることがキルを容認しているためだと説明することができる。つまり、ダス形は能力可能と状況可能のどちらの性質も持っていると言える。

なお、ダスの使用条件である時間的不可能を満たしている例文でも、時間がない原因がもう1つの条件である、実現できる合理的期待がどの程度あるかによって、ダス形の容認度が変わり、条件に応じて使用する可能表現が選択される。以下の(49)(50)は、時間的不可能という条件でありながらダス形が使用されない例文である。

- (49) *nigateyakken* *zikanno* *kakaruken* *kyoozyuuniwa*
 nigate=yar-ru=ken zikan=no kakar-ru=ken kyoozyuu=ni=wa
 苦手=COP-NPST=CSL 時間=NOM かかる-NPST=CSL 今日中=DAT=TOP

{?sidasan / *saren /
 {?s-i-das-a-n / *s-rare-n /
 {?する-THM-POT-THM-NEG/ *する-POT-NEG/

sii *kiran* / *siwa* *en}yo.*
 s-i kir-a-n s-i=wa e-n}=yo
 する-THM POT-THM-NEG/ する-THM=TOP POT-NEG}=SFP

「苦手で時間がかかるので今日中にはできないよ。」

- (50) *siyakusyon* *hitoga* *tetuzukini* *zikanno*
 siyakusyo=n hito=ga tetuzuki=ni zikan=no
 市役所=GEN 人=NOM 手続き=DAT 時間=NOM

kakarasuken *kyoozyuuniwa*
 kakar-rass-ru=ken kyoozyuu=ni=wa
 かかる-HON-NPST=CSL 今日中=DAT=TOP

{*sidasan / saren /
 {*s-i-das-a-n / s-rare-n /
 {*する-THM-POT-THM-NEG/ する-POT-NEG/

**sii* *kiran* / **siwa* *en}yo.*
 *s-i kir-a-n / *s-i=wa e-n}=yo
 *する-THM POT-THM-NEG/ *する-THM=TOP POT-NEG}=SFP

(今日中に書類の提出を頼まれたが、市役所側と複数回のやりとりが必要でさらに時間がかかるものだった。)

「市役所側の手続きに時間がかかるので今日中にはできないよ。」

ダス形の使用条件 (II) 実現できる合理的期待の観点より、(49)は苦手なために今日中でできないことがわかりきっている時、ダス形は容認度が低くなり、「苦手である」という

条件である能力可能を表すキルが選択されやすくなる。一方で、苦手だが今日中に全く終わらないというわけではなく、終わる可能性もあると思っている状況では、ダス形も使用が可能である。後者の場合、実現できる期待があるからである。(50)において、市役所側とのやりとりが必要で、加えて1日では片付かない時間がかかるものだという状況は、実行できる合理的期待がないため、ダス形は容認されず、ラルルが使用される。

ここで問題になるのが、渋谷(1993:32)の可能の条件スケールにダス形を位置付けられるかという点である。渋谷(1993:215)のダス形が外的条件可能であるという主張は、ダス形が能力可能と状況可能のどちらの性質も持っていることを無視した結論となってしまう。そのため、能力可能と外的条件可能の2つの条件にまたがるように位置付けたいが、渋谷(1993:32)の可能の条件スケールに位置付けようすると、その2つの間に「内的条件」があるため、うまく位置付けることができない。さらに、ダス形の使用には「時間的不可能」であることが条件となるが、他の可能表現の使用にそのような条件はないため、この条件をどのように表すべきかが問題となる。

よって、それらの問題を踏まえると、ダス形を通方言的な可能の条件スケールに位置付けるべきではなく、限定された状況でのみ使用することができる、特殊な可能表現として扱うべきである。

以下、特殊な可能表現とした上で、他の可能表現と比較を行う。

渋谷(1993:32)の可能の条件スケールにダス形を位置付けることはできなかったが、心情・性格可能から外的条件可能の分類を明確に区別せず、可能の性質が能力可能から状況可能までグラデーションのようになっていると捉えると、およそ図6のように可能表現の分布を位置付けることができる。

	←能力可能	状況可能→
ダス		■
キル	■	
ラルル		■

図6. 可能表現の持つ性質

4.2節において示したように、深江方言で用いられるキルは心情可能から主観的外的条件可能まで用いられ、一方ラルルは、客観的外的条件可能から能力可能まで用いられた。つまり、キルもラルルも能力可能や状況可能という枠組みから、より使用範囲が広がっていることがわかる。ダス形が使用できる時、キルもラルルも使用可能であることを踏まえると、ダス形の性質はキルとラルルに内包される形になる。

また、アスペクトの点からも比較ができる。ダス形は動作の開始に焦点を当てることが多いが、一方でキルは完遂のアスペクトから発展したため、終了の時点に焦点を当てるこ

とが多い。ラルルはそのような偏りを見せない。

6. おわりに

深江方言に見られる可能表現ダス形の使用についてまとめる。

まず、ダス形は接続することができる動詞に制限があり、開始の時間限界と意志性がともにある動詞にのみ接続することができる。自発的な行為を表す動詞にはダス形は容認されず、他の可能表現が使用される。

ダス形の使用条件は「時間的不可能」かつ「実現できる合理的期待があること」である。なんらかの要因で動作を実現できなくなってしまっており、時間の経過や自身の努力次第では行為の実現を阻害している状況が排除され実現できる可能性があったが、結局時間制限によってできなかつたという意味でダス形が使用される。他の可能表現とは異なる条件を持つ特殊な可能表現であり、可能の条件スケールに位置付けることは難しい。

今後の課題は以下に述べる通りである。以下の(51)はダス形が容認されるが、(52)はダス形が容認されない。2つの例文の違いは、動作開始の段階にいるかいないかという点である。「行く」という動作の開始の状況にいなければダス形が使用できない。つまり、ダス形の使用条件が5章で述べた2つだけでは説明することができず、ダス形の使用条件をアスペクトの側面から新たに設定する余地がある。

(51)	<i>tuukoodomeno</i>	<i>kaizyoba</i>	<i>mattyottara</i>	<i>tootoo</i>
	<i>tuukoodome=no</i>	<i>kaizyo=ba</i>	<i>mat-te=or-tara</i>	<i>tootoo</i>
	通行止め=GEN	解除=ACC	待つ-SEQ=PF-COND	とうとう

{ <i>ikidasan</i> /	<i>ikaren</i> /
{ <i>ik-i-das-a-n</i> /	<i>ik-rare-n</i> /
{行く -THM-POT-THM-NEG/	行く -POT-NEG/

<i>iki</i>	<i>kiran</i> /	<i>ika</i>	<i>en/yatta.</i>
<i>ik-i</i>	<i>kir-a-n</i> /	<i>ik-i=wa</i>	<i>e-n}=yar-ta</i>
行く -THM	POT-THM-NEG/	行く - THM=TOP	POT-NEG}=COP-PST

（家を出る前に、ニュースでいつも通る道が通行止めになっていたことを知った。他の道で遠回りをすれば行くことができたが、）

「通行止めの解除を待っていたらとうとう行くことができなかつた。」

- | | | | | |
|------|--|---------------------|-----------------------|--------------------|
| (52) | <i>tuukoodomeno</i> | <i>kaizyoba</i> | <i>mattyottara</i> | <i>tootoo</i> |
| | <i>tuukoodome=no</i> | <i>kaizyo=ba</i> | <i>mat-te=or-tara</i> | <i>tootoo</i> |
| | 通行止め=GEN | 解除=ACC | 待つ-SEQ=PF-COND | とうとう |
| | <i>{*ikidasan /</i> | <i>ikaren /</i> | | |
| | <i>{*ik-i-das-a-n /</i> | <i>ik-rare-n /</i> | | |
| | <i>{*行く -THM-POT-THM-NEG/</i> | <i>行く -POT-NEG/</i> | | |
| | | | | |
| | <i>iki</i> | <i>kiran /</i> | <i>ika</i> | <i>en}yatta.</i> |
| | <i>ik-i</i> | <i>kir-a-n /</i> | <i>ik-i-=wa</i> | <i>e-n}=yar-ta</i> |
| | 行く -THM | POT-THM-NEG/ | 行く - THM=TOP | POT-NEG}=COP-PST |
| | (家を出でいつもの道を走っていたら、その先が通行止めになつてゐることに気づいた。他の道で遠回りをすれば行くことができたが、) | | | |
| | 「通行止めの解除を待つていたらとうとう行くことができなかつた。」 | | | |

また、ダス形は能力可能と状況可能の2つの性質を併せ持つため、ダス形が使用可能であるとき、キルとラルルも使用できるという一般化を行った。しかし以下の例文では、ダス形が使用できるにも関わらずキルやユルは容認度が低く、どちらかというと使用しないという結果となった。

- | | | | | |
|------|-----------------------------------|----------------------|-----------------------|-------------------------|
| (53) | <i>kaigino</i> | <i>owarutoba</i> | <i>mattyottara</i> | <i>tootoo</i> |
| | <i>kaigi=no</i> | <i>owar-ru=to=ba</i> | <i>mat-te=or-tara</i> | <i>tootoo</i> |
| | 会議=NOM | 終わる-NPST=FMN=ACC | 待つ-SEQ=PF-COND | とうとう |
| | <i>{tabedasan /</i> | <i>taberaren /</i> | | |
| | <i>{tabe-das-a-n /</i> | <i>tabe-rare-n /</i> | | |
| | <i>{食べる-POT-THM-NEG /</i> | <i>食べる-POT-NEG /</i> | | |
| | <i>*tabe</i> | <i>kiran /</i> | <i>*tabe</i> | <i>en}yatta.</i> |
| | <i>*tabe</i> | <i>kir-a-n /</i> | <i>*tabe</i> | <i>e-n}=yar-ta</i> |
| | <i>*食べる</i> | <i>POT-THM-NEG /</i> | <i>*食べる</i> | <i>POT-NEG}=COP-PST</i> |
| | 「会議が終わるのを待っていたらとうとう食べることができなかつた。」 | | | |

話者の内省によると、「食べキラン」「食べエン」は「お腹がいっぱい食べることができない」という使い方が強いため、(53)のような状況では使用しづらいという。しかし、

「食べキラン」「食べエン」は調査によって心情・性格、能力、内的条件において使用できるという結果が出ているため、「食べキラン」「食べエン」自体の使用が満腹で食べることができないという文脈に限定されているとは言い難い。調査において他の動詞ではこのような回答は見られなかつたため、今回の一般化における例外としたが、この結果についての考察は深められていない状況である。加えて、ダス形の使用の可・不可を調査した際、他の可能表現の使用の可・不可についての調査がおろそかになっており、データを十分に揃えたうえで一般化を行うことができなかつた。そのため、他の可能表現との関係の再検討を今後の課題とする。

参照文献

- 愛宕八郎康隆 (1978) 「肥前長崎地方の「～キル」「～ユル」について」『長崎大学教育学部人文科学研究報告』27: 135-144.
- 船木礼子 (2002) 「天草方言の可能表現」真田信治 (編) 『消滅に瀕した方言語法の緊急調査研究』1: 313-330. 吹田: 大阪学院大学情報学部.
- 服部四郎 (1950) 「附属語と附属形式」『言語研究』15: 1-26.
- 神部宏泰 (1986) 「九州方言の可能表現—その存立と特性—」『兵庫教育大学研究紀要』7(2): 1-17.
- 上村孝二 (1983) 「九州方言の概説」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『講座方言学9—九州地方の方言—』1-28. 東京: 国書刊行会.
- 河合茂美 (1966) 「大分県大分市鶴崎方言の助動詞」『方言研究年報』9: 99-108.
- 古瀬順一 (1970) 「島原半島方言の実態」平山輝男博士還暦記念会 (編) 『方言研究の問題点』476-500. 東京: 明治書院.
- 古瀬順一 (1983) 「五島の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『講座方言学9—九州地方の方言—』173-206. 東京: 国書刊行会.
- 工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』東京: ひつじ書房.
- 九州方言学会 (1969) 『九州方言の基礎的研究』東京: 風間書房.
- 九州方言研究会 (編) (2004) 『西日本方言の可能表現に関する調査報告書』鹿児島: 九州方言研究会.
- 西島宏 (1963) 「長崎県方言概観」『人文科学研究報告』12: 34-41.
- 寺師忠夫 (1961) 「奄美大島」遠藤嘉基・平山輝男・大久保忠利・柴田武 (編) 『方言学講座4—九州・琉球方言—』東京: 東京堂.
- 東条操 (1966) 『国語の方言区画』東京: 東京堂.
- 渋谷勝己 (1993) 「日本語可能表現の諸相と発展」大阪大学文学部紀要 33(1): i-262.

付録

以下では、調査例文、話者 T.K 氏（調査票における T）と J.H 氏（調査票における J）の回答を可能表現ごとに記載する。

調査の段階では、ダス形の使用条件を調べるために様々な条件を設定し、調査を行った。本文では触れていない条件として、「時間的切迫性」「自身の能力の介在余地」「実行意志」「努力」「自分にとって不可能か誰にとっても不可能か」が挙げられる。これらは使用条件の仮説を立て調査を行ったが、結果として使用条件とならなかつたものである。それぞれの例文の上に調査の段階で設定した条件を記載する。

なお、使用している記号とその意味は以下の通りである。

- 話者が容認できるかつ使用する
- ✗ 話者が容認できない
- △ 話者自身は使用しないが容認できる
- 未調査

可能の条件スケールに沿った調査

	ダス		ラルル		キル		ユル	
	T	J	T	J	T	J	T	J
【行く・心情可能】 夜のお墓は怖くて行くことができない。	✗	✗	✗	✗	○	○	○	○
【行く・能力可能】 足が悪いので遠い郵便局には行くことができない。	✗	✗	✗	✗	○	○	○	○
【行く・内的条件可能】 今日は具合が悪くて郵便局に行くことができない。	✗	✗	○	○	○	○	○	○
【行く・主観的外的条件可能】 今日は夜まで用事があるので郵便局に行くことができない。	○	○	○	○	○	○	○	○
【行く・客観的外的条件可能】 今日は郵便局はお休みなので行くことができない。	✗	✗	○	○	✗	✗	✗	✗
【買う・心情可能】 友達に見られていたら恥ずかしくて洋服を買うことができない。	✗	✗	○	○	○	○	○	○
【買う・能力可能】	✗	✗	○	○	○	○	○	○

お金がない（経済的に苦しい）ので洋服を買うことができない。								
【買う・内的条件可能】 欲しいものがあるけど、今日は具合が悪いのでお店に行って買うことができない。	×	×	○	○	○	○	○	○
【買う・主観的外的条件可能】 せっかくデパートに来たけど、今日は用事があって急いでいるので洋服を買うことができない。	○	○	○	○	○	○	○	×
【買う・客観的外的条件可能】 今日は5000円しか持って来ていないので、1万円のこの服は買うことができない。	×	×	○	○	○	○	○	×
【読む・心情可能】 この本は怖くて読むことができない。	×	×	×	×	○	○	○	○
【読む・能力可能】 目が見えないので本を読むことができない。	×	×	○	○	○	○	○	○
【読む・内的条件可能】 今日は具合が悪くて本を読むことができない。	×	×	○	○	○	○	○	○
【読む・主観的外的条件可能】 今日は用事があるので本を読むことができない。	○	○	○	○	○	○	○	×
【読む・客観的外的条件可能】 停電しているので暗くて本を読むことができない。	×	×	○	○	×	×	×	×
【食べる・心情可能】 こんなに人目につくところでは恥ずかしくて食べることができない。	×	×	○	×	○	○	○	○
【食べる・能力可能】 お腹がいっぱいのでこれ以上食べることができない。	×	×	○	○	○	○	○	○
【食べる・内的条件可能】 今日は具合が悪くてご飯を食べることができない	×	×	○	○	○	○	○	○
【食べる・主観的外的条件可能】 今日は用事があるのでお昼ご飯を食べることができない。	○	○	○	○	○	○	○	×
【食べる・客観的外的条件可能】 ご飯が悪くなっていて食べることができない。	×	×	○	○	×	×	×	×

時間的不可能に着目した調査

	ダス		ラルル		キル		ユル	
	T	J	T	J	T	J	T	J
【時間的不可能+】 市役所に用事があるが、一日中仕事なので行くことができない	○	○	○	○	○	○	△	○
【時間的不可能+】 市役所に用事があるが、今日は忙しいので行くことができない	○	○	○	○	○	○	△	○
【時間的不可能+】 あと 10 分ではあんなに遠い郵便局には行くことができない	×	×	○	○	○	○	○	○
【時間的不可能+】 今日は出張に行くので市役所に行くことができない	○	○	○	○	○	○	×	○
【時間的不可能-】 昨日から出張で県外にいるので市役所に行くことができない	×	×	○	○	△	○	△	○
【時間的不可能-】 市役所に用事があったが、バスも電車も止まっていて行くことができなかつた	×	×	○	○	○	△	×	△
【時間的不可能-】 市役所に用事があったが、バスに乗るお金がなくて行くことができなかつた	×	×	○	○	×	×	×	×
【時間的不可能-】 市役所に用事があったが、車がパンクしていて行くことができなかつた	△	×	○	○	-	-	-	-
【時間的不可能-】 市役所に用事があったが、車が（使われていて）なかつたので行くことができなかつた	×	×	○	○	○	-	-	-
【時間的不可能-】 雨が酷かつたので行くことができなかつた	○	×	○	○	○	○	○	○

時間的切迫性の有無に着目した調査

	ダス		ラルル		キル		ユル	
	T	J	T	J	T	J	T	J
【時間的切迫性+】 (17時に閉まる市役所に用事があり、16時ごろ家を出たが、) 車がパンクしていて行くことができなかった	○	○	○	○	○	○	-	○
【時間的切迫性-】 (市役所に用事があり、朝家を出たが、) 車がパンクしていて行くことができなかつた	△	×	○	○	○	○	-	○
【時間的切迫性+】 (17時に閉まる市役所に用事があり、16時ごろ家を出たが、) 雨が酷くて行くことができなかつた	○	○	○	○	○	○	-	○
【時間的切迫性-】 (市役所に用事があり、朝家を出たが、) 雨が酷くて行くことができなかつた	○	×	○	○	○	○	-	○

能力の介在余地の有無に着目した調査

	ダス		ラルル		キル		ユル	
	T	J	T	J	T	J	T	J
【時間的不可能+、能力介在の余地+】 (一日仕事をする中で、自分のやりようによつては行く余裕があつたが、) 一日中仕事があつたので行くことができなかつた	○	○	○	○	○	○	○	○
【時間的不可能+、能力介在の余地-】 (一日中外に出る猶予はなくて) 一日中仕事があつたので行くことができなかつた	×	△	○	○	-	-	-	-
【時間的不可能+、能力介在の余地+】 (書類を今日中に市役所に提出するように頼まれたが、) 今日は忙しくて時間がないからできないよ	○	○	○	○	○	○	△	○
【時間的不可能+、能力介在の余地-】 (書類を今日中に市役所に提出するように頼まれたが、それは市役所が閉まる 10 分前で、) 今日はもう時間がないからできないよ	△	×	○	○	○	○	○	○

【時間的不可能ー、能力介在の余地+】 今日は雨が酷くて行くことができなかつた	△	×	○	○	○	○	○	○
【時間的不可能ー、能力介在の余地ー】 今日は台風だったから行くことができなかつた	×	×	○	○	×	×	△	×
【時間的不可能+、能力介在の余地+】 雨が止むのを待っていたらとうとう行くことができなかつた	○	○	○	○	○	○	-	-
【時間的不可能+、能力介在の余地ー】 台風が過ぎるのを待っていたらとうとう行くことができなかつた	×	○	○	○	×	○	-	-
【時間的不可能+、能力介在の余地ー】 (家の前の道が通行止めになつていて、) 通行止めの解除を待っていたらとうとう行くことができなかつた	○	○	○	○	○	○	-	○
【時間的不可能+、能力介在の余地ー】 (いつも通る道が通行止めで、他の道を通れば行くことができたが、) 通行止めの解除を待っていたらとうとう行くことができなかつた	×	○	○	○	○	○	-	○
【時間的不可能+、能力介在の余地ー】 会議が終わるのを待っていたらとうとうご飯を食べることができなかつた	○	○	○	○	×	×	×	×
【時間的不可能+、能力介在の余地ー】 食堂が空くのを待っていたらとうとうご飯を食べることができなかつた	○	○	○	○	×	×	×	×
【時間的不可能+、能力介在の余地ー】 (いつも友達と集合してお昼ご飯を食べているが、) 友達が揃うのを待っていたらご飯を食べることができなかつた	○	○	○	○	×	×	×	×
【時間的不可能+、能力介在の余地ー】 食べ放題のお店で大好きなおかずが提供されるのを待っていたけど食べることができなかつた	×	△	○	○	×	×	×	×

実行意志の有無

	ダス		ラルル		キル		ユル	
	T	J	T	J	T	J	T	J
【時間的不可能ー、実行意志+】 (仕事を頼まれたときに、) 道具がないとこの仕事はできないからまたあとでやるね	×	×	○	○	×	×	-	-
【時間的不可能ー、実行意志ー】 (仕事を頼まれて断ったときに理由を聞かれて) 道具がないとこの仕事はできないよ	×	×	○	○	×	×	-	-
【時間的不可能+、実行意志+】 (仕事を頼まれたときに、) 今日は時間がないからこの仕事はできないよ。またあとでやるね	○	○	○	○	○	○	-	-
【時間的不可能+、実行意志ー】 (仕事を頼まれて断ったときに理由を聞かれて) 今日はもう時間がないからできないよ	○	○	○	○	○	○	-	-
【時間的不可能+、実行意志ー】 (市役所まで 30 分以上かかるのに、市役所が閉まる 10 分前書類の提出を頼まれて、) 今日はもう時間がないからできないよ	×	△	○	○	○	-	-	-
【時間的不可能+、実行意志ー】 A 「この用事、今日やっておいてほしい。」 B 「私はやらないから自分でやって。」 A 「なんで？」 B 「これは手続きに時間がかかるから今日中にはできないんだよ。」	○	○	○	×	○	○	-	-
【時間的不可能+、実行意志ー】 A 「この用事、今日やっておいてほしい。」 B 「私はやらないから自分でやって。」 A 「なんで？」 B 「これは私がやると苦手で時間がかかるから今日中にはできないよ。」	○	○	×	×	○	○	△	○
【時間的不可能+、実行意志+】 A 「今日頼んでおいた用事は終わった？」 B 「ごめんね、苦手で時間がかかるからやってできなか	○	○	○	-	○	○	-	-

<u>ったから明日でもいい?」</u>								
【時間的不可能+、実行意志-】	○	○	○	○	○	○	○	○
A 「この用事、今日やっておいてほしい。」								
B 「私はやらないから自分でやって。」								
A 「なんで?」								
B 「忙しいから今日中にはできないよ。」								
【時間的不可能+、実行意志+】	○	○	○	○	○	○	-	○
A 「この用事、今日やっておいてほしい。」								
B 「ごめんね、今日は忙しくてできないから明日にな ってもいい?」								
【時間的不可能-、実行意志-】	×	×	○	○	○	○	-	-
A 「今日頼んでおいた用事は終わった?」								
B 「印鑑がなかったからできなかったよ。」								
【時間的不可能-、実行意志-】	×	×	○	○	×	×	-	-
A 「今日頼んでおいた用事は終わった?」								
B 「あれは市役所側で手続きに時間がかかるから今日 中にはできなかったよ。」								

努力の有無に着目した調査

	ダス		ラルル		キル		ユル	
	T	J	T	J	T	J	T	J
【時間的不可能+、努力-】	○	○	○	○	○	○	-	-
雨が止むのを待っていたけど、とうとう行くことができなかつた (待っていただけ)								
【時間的不可能+、努力+】	×	△	○	○	○	○	-	-
雨が止むのを待っていたけど、とうとう行くことができなかつた (行こうと様々な努力をした)								
【時間的不可能+、努力-】	○	○	○	○	×	×	×	×
仕事をしていたら時間がなくてお昼ご飯を食べることができなかつた (普通に仕事をこなしていた)								
【時間的不可能+、努力+】	○	○	○	○	×	×	×	×
仕事をしていたら時間がなくてお昼ご飯を食べることができなかつた (どうにか休憩時間までに終わらせようと努力をした)								

誰にとって不可能であるかに着目した調査

	ダス		ラルル		キル		ユル	
	T	J	T	J	T	J	T	J
【時間的不可能+、自分だけが不可能】 優柔不断なお昼ご飯のメニューを時間内に決め ることができない	×	-	○	-	○	-	-	-
【時間的不可能+、誰にとっても不可能】 こんなにメニューが多すぎると時間内には誰も決め ることができない	×	-	○	-	○	-	-	-
【時間的不可能+、自分だけが不可能】 雨が降っていて濡れたくなかったので行くことができ なかつた	×	-	○	-	○	-	-	-
【時間的不可能+、誰にとっても不可能】 雨があまりにもひどくて行くことができなかつた	×	-	○	-	○	-	-	-
【時間的不可能+、自分だけが不可能】 この仕事は苦手で今日中にすることはでき ない	○	-	○	-	○	-	-	-
【時間的不可能+、誰にとっても不可能】 この仕事は難しすぎるので誰も今日中にすることは できない	○	-	○	-	○	-	-	-
【時間的不可能+、自分だけが不可能】 課題を来週〆切で出されたが、それまで予定がたく さん詰まっていてすることができない	○	-	△	-	○	-	-	-
【時間的不可能+、誰にとっても不可能】 課題を明日〆切で出されたが、誰もすることができ ない	×	-	△	-	○	-	-	-

人称に着目した調査

	T.K 氏の回答
【1人称】 他にも仕事があるのでこの仕事は今日中には <u>できないよ</u>	<i>sidasanyo</i> s-i-das-a-n=yo する-THM-POT-THM-NEG=SFP
【2人称】 (自分が教育している新入社員に) あなたは他にも仕事があるのでこの仕事は今日中には <u>できないよ</u>	<i>sidasanyaroo</i> s-i-das-a-n=yar-oo -THM-POT-THM-NEG=COP-INFR
【3人称】 あの人は他にも仕事があるのでこの仕事は今日中には <u>できないよ</u>	<i>sidasassanyaroo</i> s-i-das-rass-a-n=yar-oo -THM-POT-HON-THM-NEG=COP-INFR

グロス・記号一覧

ABL	ablative	奪格
ACC	accusative	対格
ADVRS	adversative	逆接
CAUS	causative	使役
COND	conditional	条件
COP	copula	コピュラ
CSL	casual	順接
DAT	dative	与格
FMN	formal noun	形式名詞
GEN	genitive	属格
HON	honorific	尊敬
INFR	inferential	推量
INST	instrumental	具格
LV	light verb	軽動詞
NEG	negation	否定
NOM	nominative	主格
NPST	non-past	非過去
PASS	passive	受動
PF	perfect	パーフェクト
POT	potential	可能
PST	past	過去
SEQ	sequential	継起
SFP	sentence final particle	終助詞
TENSE		
THM	thematic vowel	語幹母音
TOP	topic	主題
=		接語境界
-		接辞境界
*		話者が容認できない表現
?		話者自身は使用しないが 容認できる表現

謝辞

本論文の執筆にあたり、大変多くの方々にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

まず、深江方言の方言調査を行うにあたり、長期間に渡って調査に協力してくださった祖母と祖母のご友人に深く感謝いたします。負担の大きい調査も快く引き受け、未熟者の私に辛抱強く付き合ってくださいました。

指導教官である下地理則先生は、専門分野の基礎知識も乏しい状態の私に、手取り足取り丁寧な指導をしてくださいました。様々な知識や考え方をご教授いただき、大きく成長することができました。

研究室の先生方である、久保智之先生、上山あゆみ先生、太田真理先生は、講義や演習で様々な基礎知識を教えていただきました。

研究室の先輩・同期にも大変お世話になりました。占部由子先輩、松岡葵先輩、宮岡大先輩、廣澤尚之先輩は、お忙しい中論文の相談に乗ってくださいり、たくさんのアドバイスをいただきました。精神的にくじけそうな私を一番近くで支えてくれたのは、ゼミ同期の池美礼さん、立花千夏さん、徳永理子さん、小林宙夢さんや他ゼミの田崎美佳さんをはじめとするみなさんでした。毎日のように研究室で顔を合わせ、論文のことのみならず何でも相談できる存在でそばにいてくれたことに感謝しています。

最後に、遠い島原の地からいつも応援し、大学生活を支えてくれた家族に感謝申し上げます。